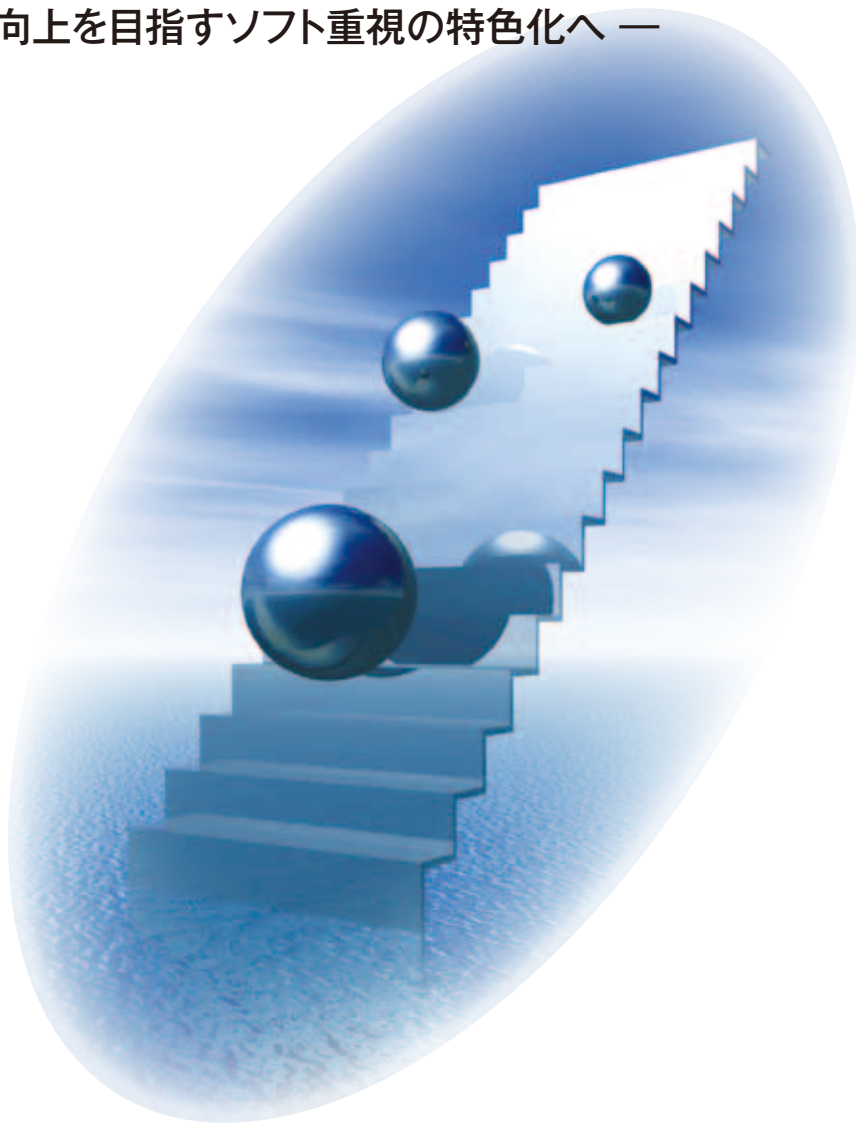


魅力ある県立高校づくり懇話会 報告

# 「今後の県立高校の活性化・特色化について」

— 教育の質の向上を目指すソフト重視の特色化へ —



平成25年3月

魅力ある県立高校づくり懇話会



# 目次

はじめに .....	1
------------	---

---

## I これまでの県立高校の活性化・特色化の取組について

---

1 これまでの経緯 .....	3
2 これまで設置されてきた特色ある高校について .....	4
3 県立高校の学校規模について .....	6

---

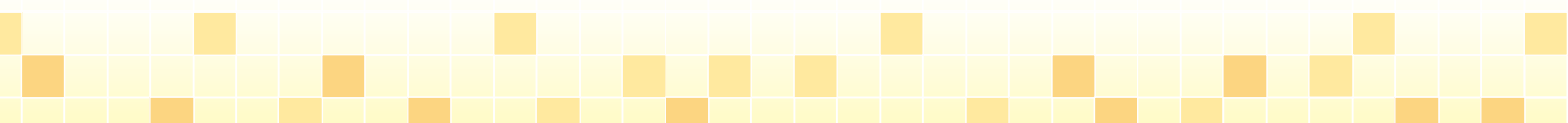
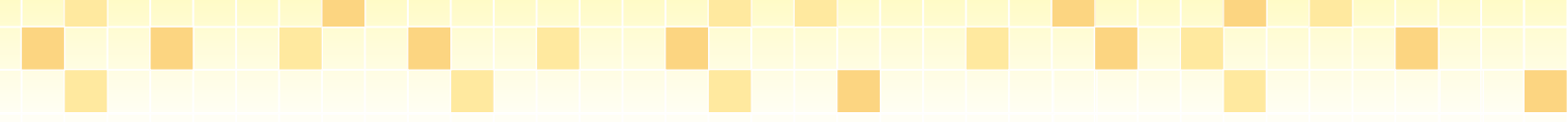
## II これからの県立高校の活性化・特色化について

---

1 学力向上について .....	9
2 グローバル化に対応した人材の育成について .....	11
3 社会的自立について .....	12
4 専門学科について .....	14

おわりに .....	16
------------	----

資料編 .....	17
-----------	----



## はじめに

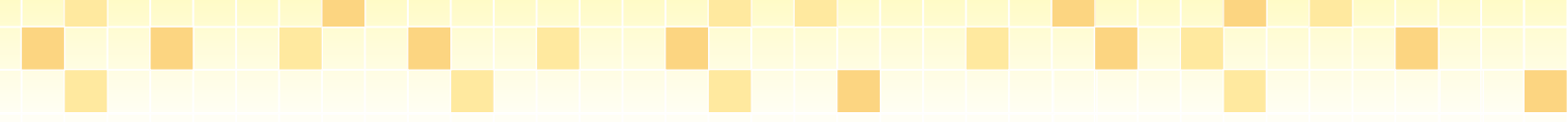
現在、我が国の社会は、少子高齢化の進展、グローバル化、情報通信技術の発達・普及といった大きな変化にさらされているとともに、地域コミュニティの弱体化や家庭の教育力の低下、地球規模の問題の進行など新たな社会的課題に直面している。

このような中、「魅力ある県立高校づくり懇話会」は平成24年8月に設置され、これまで埼玉県教育委員会が進めてきた「21世紀いきいきハイスクール推進計画」終了後の、更なる県立高校の活性化や特色ある高校づくりのあり方について、5回に亘り会合を持ち、現在の社会状況を踏まえた議論を進めてきた。

懇話会ではいずれの回においても、これからの県立高校に求められるものについて、委員から活発に意見が出され、建設的な議論が展開された。

埼玉県教育委員会が、今後、県民・生徒・保護者にとって更に魅力にあふれた県立高校づくりを実現するための指針として、ここに懇話会における議論の結果についてまとめ、報告するものである。

魅力ある県立高校づくり懇話会  
座長 渋谷 治美



# I これまでの県立高校の活性化・特色化の取組について

## 1 これまでの経緯

埼玉県の中学校卒業生数は、平成に入ってから急速に減少してきた。近年こそ急速な減少は落ち着きをみせているものの、これまで最も中学校卒業生数の多かった平成元年の約11万6千人と、最も中学校卒業生数の少なかった平成18年の約6万4千人を比較すると、18年間で4割を超える人数の減少があったところである。

埼玉県教育委員会では、このような生徒の減少を背景に、県立高校の活性化・特色化を図るため、平成11年度に、平成25年度までを期間とする「21世紀いきいきハイスクール構想」を策定した。更に、同構想に基づく「21世紀いきいきハイスクール推進計画」として、前期計画（平成11年度から平成15年度まで）、中期計画（平成16年度から平成20年度まで）、後期計画（平成21年度から平成25年度まで）を定め、県立高校の活性化・特色化を進めてきた。

この間の主な取組として、県立高校の再編が行われるとともに、特色ある学校の設置が進められてきた。特色ある学校の具体的な例としては、総合学科や単位制普通科、多部制定時制高校、中高一貫教育校が挙げられる。

## 2 これまで設置されてきた特色ある高校について

総合学科は、普通科目と専門科目にわたる幅広い選択科目の中から、生徒が自らの興味・関心や将来の進路を考えて、主体的に科目を選択し学ぶ学科である。

単位制普通科は、普通科目を中心とした多様な教科・科目から、生徒が興味・関心等に応じて選択し学ぶ学科である。

多部制定時制高校は、午前・午後・夜間等複数の時間帯で授業を行う学校であり、履修形態の多様化・弾力化を図ることで、過去に不登校や中途退学の経験がある者など様々な生徒に対応した高校である。

中高一貫教育校は、6年間の一貫した教育課程や学習環境で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化と生徒の個性をより重視した教育の実現を目指す学校である。併設型として伊奈学園中学校・伊奈学園総合高校が設置されている。他方、小鹿野高校と秩父地域の5中学校において、連携型の中高一貫教育を行っていたが、平成25年度から連携を解消する予定となっている。

これらの特色ある高校は、それぞれ一定の成果を挙げていると認められるが、今後、改善又は充実が必要と思われる課題もある。

まず、総合学科は、学科の特性や普通科との違いが中学生や保護者にまだ十分理解されていない点が見受けられる。また、生徒の目的意識が曖昧である場合、生徒が自ら科目を選択するシステムが十分に効果を発揮しない点も課題として挙げられる。

単位制普通科は、学び直しなど単位制の仕組みを生かした取組が中学生及び保護者に一定の評価を受けており、理解度に応じたきめ細かな指導を行っている点を一層周知することで、更なる成果が期待できる。

多部制定時制高校は、きめ細かく生徒の指導にあたる学校として運営されており、現在は様々な課題を抱えているが将来への意欲を持った生徒に対応した



学校として十分に役割を果たしていると認められる。

中高一貫教育校は、特色ある取組の成果を市町村立中学校や公立高校へフィードバックし、県の公教育全体に役立てていく取組が今後望まれる。

なお、これ以外の県立高校でも、地域との連携を強化するなど自校の特色を打ち出すための様々な取組が実施されており、これに伴って教職員の意識改革が進んだことも含め「21世紀いきいきハイスクール推進計画」が埼玉県の県立高校の活性化・特色化において果たした役割は非常に大きかったと認められる。



### 3 県立高校の学校規模について

「21世紀いきいきハイスクール構想」では、県立高校として適切かつ多様な教育課程の編成や、学校行事などの特別活動や部活動の活力の維持という観点から、各学校が活力ある教育活動を進めることができるよう、適正な学校規模について示している。これを受け、「21世紀いきいきハイスクール推進計画」を定め、県立高校の活性化・特色化を図るため、県立高校の再編を進めてきたところである。

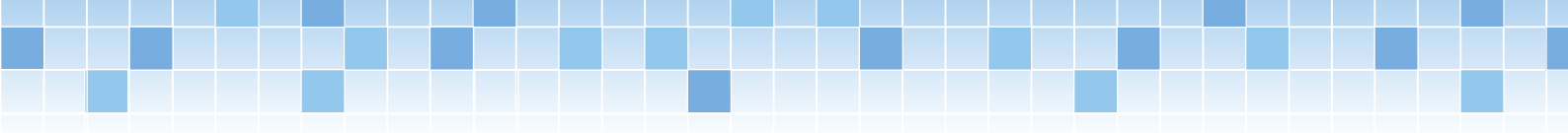
他方、現在の社会状況を踏まえれば、県立高校の学校規模を考えるにあたっては、その他にも様々な要素を考慮する必要がある。

具体的には、高校進学率が高い値で推移するなど、高校教育への社会の需要が極めて大きいことを踏まえ、高校教育を受ける機会の確保に十分配慮することが必要である。あわせて、我が国の経済状況が非常に厳しい状況にある中、通学費用等が負担となっている家庭があることにも留意する必要がある。

地域振興の観点においても、県立高校が地域の活力に与える影響は大きく、特に人口減少が進む地域では、地域の将来を担う人材を育成する観点から、小規模であっても県立高校の存在意義は非常に大きなものがあると言える。通学区の廃止により他地域から県南地域など都市部の学校へ通学する動きや、スクールバスを運行する通学利便性に優れた私立高校の影響により、地域によっては生徒の通学動向に大きな差異が生じている点にも考慮を払う必要がある。

また「21世紀いきいきハイスクール推進計画」では定時制課程の再編も行われたが、現在、定時制課程には不登校経験者など様々な課題を抱えた生徒が通学しており、次代を担う者として社会に円滑に送り出すためにも、これまでも増して一層きめ細かな教育が求められる。

なお、現在40人とされている1学級の定員を、生徒数の少ない地域ではより少ない人数にするなどの弾力的な対応を求める意見や、また定時制課程について、昼間部の高校を希望していた生徒が多いことを踏まえ、多部制定時制高



校のような定時制単独校にしていくのが望ましいという意見もあった。

## Ⅱ これからの県立高校の活性化・特色化について

当懇話会では、これからの県立高校の活性化・特色化について、現在の高校教育の課題を踏まえた議論を行った。また、職業教育を行う専門学科のあり方についても検討したところである。

こののち、以下に示す項目に分けて、懇話会で行われた議論の概要を述べる。

- 1 学力向上について
- 2 グローバル化に対応した人材の育成について
- 3 社会的自立について
- 4 専門学科について

## 1 学力向上について

### (1) 高校教育の質の保証について

近年、大学や企業から、基礎学力が十分身につけていない高校卒業者がいる旨の指摘がなされている。加えて思考力やコミュニケーション力などの能力、更には職業観や勤労観など社会性についても不足しているとの声もあり、社会から、高校を卒業して何ができるようになったのか、高校で何を学んだのかが問われている。

このような状況を踏まえれば、今後の高校教育では、特色化について考えるに先立ち、全ての生徒が共通して身につけるべき、生きる力のコアとなるものについて議論を深めていくことが重要である。

コアとなるものには、知識・技能の他、思考力、判断力、表現力といった課題解決能力、また意欲、態度に関わる主体性や市民性等が考えられる。今後、埼玉県の高校生が必ず身につけるものについて明確にし、いかなる方法でそれを身につけさせるかの議論を深めるなど、高校教育の質を保証するための取組を進めていく必要があると考えられる。

### (2) 高校教育における特色のあり方について

前項では、全ての高校生が共通して身につけるべき力について述べたが、個々の高校生は多種多様な能力や志向を持っており、教育活動の展開にあたっては、生徒の状況に即し、特定の能力等を重点的に伸ばしていくこともまた重要である。

具体的な展開としては、これまでも進められてきた特色ある学科や教育課程を設ける方法が考えられる。将来の進路や興味ある分野が明確になっている生徒には、その目的意識に沿った専門的な教育を行うことで、学ぶ意欲を高め、能力を伸ばすことができる。今後も、産業構造の変化や、生徒、保護者のニーズを踏まえた新しい学科等について検討する余地がある。

ただし、社会全体として進路決定の時期を先延ばしする傾向が見られるため、このような新しい学科等を検討するにあたっては、生徒、保護者のニーズがあるかを慎重に見極める必要がある。また、過度に選択肢が増えることで生徒、保護者の混乱を招かないよう、選択の幅を適切な範囲に設定することにも留意が必要である。

また、学科や教育課程の特色化の他にも、各学校が生徒の状況や保護者の期待を踏まえた目標やミッションを掲げ、日々の魅力ある授業展開等を通して着実に達成を図っていくことも特色化のひとつの方法であると考えられる。目標等の内容は、進学、就職等の進路実績や達成すべき学力水準などが考えられる。目標等に基づく学校経営の取組は、既に学校評価で実施されているが、内容を更に明確にするとともに、高校選択において活用されるよう、中学生やその保護者に積極的に周知していくことが望まれる。なお、このような取組には、成果検証などP D C Aサイクルの運用に一定の時間が必要であることを踏まえ、校長が長期的な視点で学校経営に取り組める人事上の配慮が必要である。

更には、学力向上の取組は全ての県立高校において当然必要となるが、特に、学力的に中位に位置する生徒が多く通う高校において重要となるとの意見で一致した。少子化の進行と大学入学定員の増加により、大学に進学しやすい状況が生まれている中で、最も厚い中位層の生徒たちに勉強することの大切さをどう伝えていくか、勉強への意欲をいかに持たせるかが重要である。

## 2 グローバル化に対応した人材の育成について

グローバル化の進展や情報通信技術の発達等により社会が大きく変化する中で、これからの日本を担おうという高い志を持ち、海外に視野を向ける高校生が現れている。海外に出ることで培われる幅広い視野は、これからの社会を生きる上で非常に重要なものと考えられる。

将来、世界の架け橋となり、日本のリーダーとなるような人材を育てる観点から、海外大学への進学支援や国際バカロレア制度への対応又は高い能力を持った生徒を更に伸ばすことに重きを置いた中高一貫教育校など、新たな取組について、今後、検討する余地がある。

他方で、日本の歴史や文化を深く理解し、日本人としての誇りと自覚を持つと同時に、異文化への理解を深めることで、一層の国際コミュニケーションが可能となることにも十分留意する必要がある。高校生は精神的に未成熟な部分を多く残しており、グローバル社会に対応した人材育成に取り組む際は、語学力だけでなく併せて人間的成熟を促す教育を行う必要がある。

また、国内外の学力調査の結果から、思考力、判断力、表現力等の一層の育成が必要であることが指摘されている。当懇話会でも、外国の高校が思考力等の育成を重視した授業を行っており、日本の高校と授業の進め方に違いがあることを指摘する意見があった。グローバル社会への対応を企図するのであれば、今後、日本の高校でもそのような教育が必要となってくると考えられる。

### 3 社会的自立について

近年、若者の学校から社会・職業への移行が円滑に行われていないことや、職業人としての基本的な能力の低下や、職業意識、職業観の未熟さが指摘されている。それを受け、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育が強く求められている。

当懇話会も基本的な認識を同じにするものである。特に、自分が社会の一員であり社会に貢献できる力があると実感する、自己肯定感を持つプロセスが重要である、との認識で強く一致した。

このことを踏まえ、キャリア教育や体験活動、また社会人として生きていく上で基礎となる確かな学力を定着させるための学び直しを強力に推進していく必要がある。

現在、キャリア教育の一環として、埼玉県経営者協会等の協力を得て、企業人が参加する四者面談を実施しているが、産業界の力を借りることで実社会に即した内容となっており、非常に優れた取組であるとの評価を得ている。また、地域の産業界の協力のもと全生徒がインターンシップを経験するようになったことで、地域企業への就職率が大きく上昇した専門高校もある。更には、学び直しを特色とする県立高校がある他、大学生等を学習アドバイザー等として県立高校に派遣するラーニングサポート推進事業が効果を上げている。

今後、これらの取組を更に拡大するなど、キャリア教育や体験活動、学び直しの取組を通じて、若者を社会的自立に導くことが重要である。更には、このような取組を重点的に推進する点で特色ある高校の充実も望まれる。

社会的自立にかかる支援が必要な生徒は、学習や生徒指導での課題を抱えていることが多いため、手厚い指導を行う必要がある。また、このような取組を進めるにあたっては、地域、企業、NPOなど外部の資源を学校のサポーターとして活用することも非常に有効であるが、そのためには、教員が外部





資源のコーディネートに注力できる体制が不可欠である。

したがって、生徒の社会的自立を支援する取組に重点を置く高校には、教員及び教員を補佐するスタッフを十分に配置するなど、然るべき投資を行うことが必要である。このような投資は、子どもたちのためであると同時に、将来、勤労や納税等を通じて社会を支える人間を一人でも多く育成するためのものであり、最終的に社会全体にとって有益なものとなるとの認識も重要である。



## 4 専門学科について

### (1) 専門学科について

専門学科の学習内容は、社会と密接に結びついた実習中心のものとなっていることから、生徒にとって学ぶ意義がわかりやすく、学習意欲を喚起しやすい点で非常に優れている。専門学科での学習を通じて、学ぶ目的が明確になった生徒も多い。これまで積み重ねてきた地域の企業との信頼関係に基づき、就職実績も良好に推移しているとともに、大学等への進学を選択する生徒も増加している。

他方で、学習内容や進路実績など専門学科の優れた点が、中学生やその保護者に十分認識されていない状況が見られる。今後、中学生やその保護者に、専門学科の魅力や長所をPRする取組が必要である。

また、専門学科への進学は将来の進路選択をも見据えたものとなるので、個々の生徒の志向等を理解している中学校教員が専門学科への理解を深めることで、高校選択において一層適切な助言を行うことができると考えられる。中学校と高校が連携を更に強化して、進路選択に関わっていくことが重要である。

### (2) 専門学科における特色のあり方について

平成25年度は、県内の県立高校において、農業に関する学科として17学科（延べ22科）、工業に関する学科として19学科（延べ51科）、商業に関する学科として8学科（延べ30科）が置かれる予定となっている。

これを特色として評価することもできるが、他方で、類似した名称の学科が多く存在するなど、中学生やその保護者にとって何を勉強できるのかがわかりにくくなっている。また、社会の高度化により多分野にまたがる広範な知識が必要となっているときに、過度に学科を細分化することは、卒業後の進路選択の幅を狭めてしまう危険性もある。

今後は、基幹的な分野に学科を集約していくことが望ましい方向性であると

考えられる。また、分野によっては、入学後に学科を決めることができる募集方法についても検討の余地がある。

なお、一部の専門学科では、技術革新や産業構造の変化により、専門学科で学んだ内容を生かせる仕事に就きにくい状況が生じている。卒業後、多様な進路をとることは否定されるものではないが、専門学科で学んだことが生かせる就職先の有無は、高校選択における重要な要素となる。これからの専門学科の展開にあたっては、地域のニーズや労働市場の需要の状況を念頭に置く必要がある。

また、若い労働力を育てるために、高校生を採用する企業の支援や、企業の教育力を学校に提供してもらうなどの取組について、県産業労働部などとの連携を更に密にし、推進していくことが望まれる。

## おわりに

「21世紀いきいきハイスクール推進計画」の取組が進められたことにより、様々な特色を持った県立高校が設置され、更なる充実、改善の余地はあるものの、一定の成果を挙げていると認められる。

「21世紀いきいきハイスクール推進計画」は平成25年度をもって計画期間が終了するが、これを継承し県立高校の魅力を更に高めるための取組が、今後も継続して行われる必要があることは言うまでもない。

少子高齢化や社会のグローバル化の進展、また大学進学率の上昇など社会状況が大きく変わる中で、県立高校も、変化が必要な部分は、積極的に新しいものに取り組んでいくことが求められている。

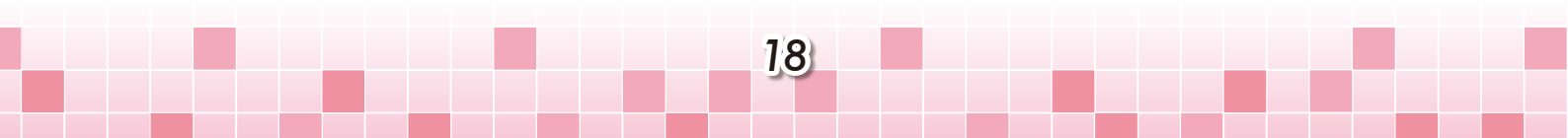
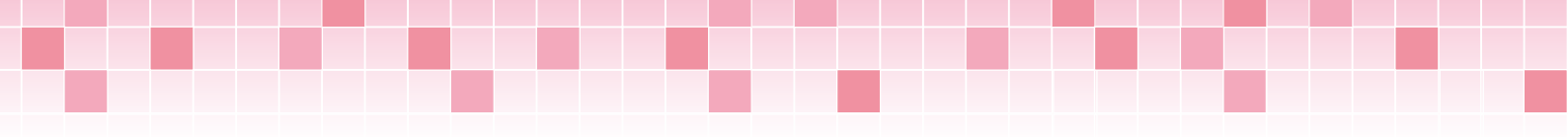
また、教育の質の向上を図る観点から、それらの取組は県立高校だけで完結するのではなく、地域や産業界など外部の機関や小中学校等と連携して行われる必要がある。

地域と連携し、地域の教育力を活用することで、生徒にとって魅力ある多彩な教育活動が可能となり、教育の質を向上させることができる。同様に、良質なキャリア教育の実施には、産業界との連携が欠かせない。更には、高校の特色化における、適切な高校選択の重要性を考えれば、義務教育と高校教育の円滑な接続や連携についても、一層、目を向ける必要がある。

当面の間、生徒数の変動が限定的な範囲にとどまることに鑑みると、これまで進めてきた高校の再編整備といったハード面の取組から、今後は学力向上や社会的自立の支援など教育の質を向上させるソフト面の取組に力を注ぐ必要があるとの認識で、当懇話会は一致した。

## 資料編

魅力ある県立高校づくり懇話会設置要綱 .....	19
魅力ある県立高校づくり懇話会委員名簿 .....	20
魅力ある県立高校づくり懇話会協議日程 .....	21



## 魅力ある県立高校づくり懇話会設置要綱

### (設置)

第1条 さらなる県立高校の活性化や特色ある高校づくりを進めるにあたり、幅広い意見を反映するため、魅力ある県立高校づくり懇話会(以下「懇話会」という。)を設置する。

### (構成)

第2条 懇話会は、学識経験を有する者、学校及び行政機関の関係者のうちから、埼玉県教育委員会教育長が依頼する委員10名以内で構成する。

### (委員の任期)

第3条 委員の任期は、平成25年3月31日までとする。

### (座長及び副座長)

第4条 懇話会に座長及び副座長を置き、委員の互選により選任する。

2 座長は、懇話会の会務を総括する。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第5条 懇話会の会議は、座長が招集し、その議長となる。

2 座長は、必要に応じて、懇話会の会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

### (会議の公開)

第6条 懇話会の会議は、原則として公開とする。ただし、出席した委員の3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

### (庶務)

第7条 懇話会の庶務は、教育局県立学校部県立学校人事課において処理する。

### (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

### 附 則

この要綱は、平成24年8月28日から施行し、平成25年3月31日をもってその効力を失う。

## 魅力ある県立高校づくり懇話会 委員名簿

氏 名	現職等
◎ 渋谷 治美 (しぶや はるよし)	埼玉大学教授
○ 藤池 誠治 (ふじいけ せいじ)	株式会社デサン 代表取締役会長
小杉 礼子 (こすぎ れいこ)	労働政策研究・研修機構 統括研究員
熊谷 哲郎 (くまがい てつろう)	埼玉県高等学校PTA連合会 会長
中村 幸一 (なかむら こういち)	東松山市教育委員会 教育長
戸ヶ崎 勤 (とがさき つとむ)	戸田市立笹目中学校 校長
工藤 倫郎 (くどう みちお)	春日部高等学校 校長
山本 安夫 (やまもと やすお)	深谷商業高等学校 校長
大出 明 (おおいで あきら)	川口工業高等学校 教頭
佐藤 忠好 (さとう ただよし)	朝霞高等学校(定) 主幹教諭

(計10名)

◎印は座長、○印は副座長を示す。

## 魅力ある県立高校づくり懇話会 協議日程

回数	開催日及び場所	主な議題等
第1回	平成24年10月23日(火) さいたま共済会館505会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>懇話会の概要について</li> <li>これまでの県立高校の活性化・特色化の取組について</li> </ul>
第2回	平成24年11月15日(木) 県庁第2庁舎教育委員会室	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの県立高校の活性化・特色化の取組について</li> <li>現在の高校教育の課題について</li> </ul>
第3回	平成24年12月25日(火) 埼玉会館5B会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの県立高校の活性化・特色化について</li> </ul>
第4回	平成25年 1月15日(火) 埼玉会館5B会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの県立高校の活性化・特色化について</li> </ul>
第5回	平成25年 1月30日(水) 県民健康センター中会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力ある県立高校づくり懇話会報告書案について</li> </ul>



---

---

平成 25 年 3 月発行

発行 埼玉県教育局県立学校部県立学校人事課  
〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1

TEL 048-830-6902

---

---



環境にやさしい「ベジタブルインキ」  
と再生紙を使用しています。